



写真15 表鉄門枡形東面石垣

栗石が露出しているところも多く見られました。天守台の外周石垣に比べ、穴蔵部分の石垣は全体的に間詰め石が少ないことから、築城当初から間詰め石があまり多く入れられていなかった可能性も考えられます。これは、穴蔵石垣が外からは見えない部分であることに起因するのかもしれません。

城内の他の場所でも、間詰め石が細かく詰められている箇所が見られます。例えば、表鉄門枡形の東面と北面の石垣を見ると、石垣の石を取り囲むように数多くの間詰め石が詰められています（写真15）。

これに対し、裏下門枡形北面及び東面の石垣は、先の類型でいう③のタイプに属するもので、先の2箇所の石垣とは対照的に、間詰め石がほとんどなく、石垣同士がきちんと合わさっているのが分かります（写真6）。

このように、間詰め石の有無を基準に城内の石垣をみていくことにより、津山城が築城された足かけ13年の間に、石垣を築く技術が進歩したことが分かります。

平成25年度の史跡津山城跡保存整備事業では、天守台の外周部石垣の間詰め石を詰める作業を行います。

また、天守台1階部分に上がるための石段（廃城後にとり付けられたもの）を上りやすくするため、積み直しを行う予定です。

整備工事期間中でも、天守台に上がることは可能ですので、ぜひ足を運んでいただければと思います。

切手門の説明板を設置しました。

史跡津山城跡に、新たな説明板が設置されました。

今年度設置したのは、大手側通路で、二の丸から本丸に至るルート上にある「切手門」の説明板です。

切手門は、一階部分が門、二階部分が櫓になっている、いわゆる「櫓門」です。この門は、津山城内の多くの門にみられる型式です。通常、櫓門は梁間（奥行き）が二

間ですが、切手門は、梁間が三間となる珍しい型式の門であることが発掘調査によって判明しました。また、門の屋根からの雨水を受ける「雨落溝」、その水を排水するための暗渠排水なども確認されています。

説明板は、切手門を正面から見ることを考え、西向きに設置しています。発掘調査時の写真や絵図、復元CG画像等を使い、来城者の方に、できるだけ城内の建造物の様子を思い浮かべていただけるよう、分かりやすい説明板の作成を心がけたいと考えています。



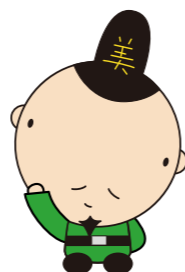
写真16 切手門跡に設置された説明板

今年は美作国建国1300年です。

和銅6年（713）、備前国から分国され、美作国が誕生しました。平成25年（2013）は、美作国が建国されて1300年の年にあたります。

これを記念し、史跡津山城跡（鶴山公園）でも、模擬天守の制作など、様々な企画やイベントが予定されています。

史跡津山城跡保存整備事業は、平成25年度も引き続き実施いたしますが、この節目の年に、できるだけ多くの方々に津山城を訪れていただき、整備の状況を見ていただきたいと思います。



美作国建国1300年イメージキャラクター「かたみくん」

津山城だより No.17

発行年月日 平成25年3月31日
編集・発行 津山市教育委員会 文化課
〒708-0824 岡山県津山市沼600-1
TEL (0868) 24-8413
印刷 (有) 弘文社

津山城だより

TSUYAMAJODAYORI

No.17
2013年3月津山市教育委員会
文化課

天守台間詰め石補修工事が完了しました。

史跡津山城跡保存整備事業では、現在、本丸の天守曲輪（天守台を中心とし、周囲を石垣で囲まれた部分）の整備を実施しています。

過去2年間の整備は、天守曲輪の北側に位置する「七番門」周辺の通路部分の舗装や、石垣天端面の舗装等、平面的な整備が中心でした。

平成24年度は、津山城の天守が建っていた「天守台」の石垣の一部で、天守台の地下にあたる「穴蔵」を中心とした石垣面に間詰め石を詰める作業を実施しました。

これらの成果や、間詰め石のもつ役割などについては、次ページ以降で詳しく紹介します。



写真1 間詰め石を詰める前（穴蔵西面石垣）



写真2 間詰め石補修完了後

間詰石を天守台穴蔵石垣に詰めました。

間詰石とは、読んで字のごとく、石垣の石と石の間に詰める小さな石のことです。津山城の石垣は、この間詰石を石垣の間に入れる工法を用いた箇所が多く見られます。

1ページの2枚の写真は、天守台穴蔵石垣東面を間詰石を詰める前と後に東側から撮影したものです。一見すると分かりにくいですが、2枚の写真を比べてみると、上の写真は石と石の隙間が大きく空いているのに対し、下の写真は、石と石の間に小さい石が詰められています。

津山城の石垣は、これまでも述べられているように、概ね次の3つの類型に分けることができます（津山市2009『津山城百聞録』pp.30-31）。

- ①自然石あるいは自然石を打ち割っただけの石を用い、角の部分も不規則な石で構成するもの（写真4）
- ②表面を鑿で平滑に加工した石を用い、石と石の間を間詰石で詰め、角には大きさのそろった長方形の石を用いるもの（写真5）
- ③表面を鑿で平滑に加工し形を四角く整え、間詰石をほとんど用いず、角の部分も長方形の石を規則正しく積み



写真4 ①のタイプの石垣（月見櫓北面石垣）



写真5 ②のタイプの石垣（天守台西面石垣）



写真3 天守台穴蔵部分航空写真（下が北）

上げているもの（写真6）

このうち、今回間詰石を詰めた天守台石垣は、②のタイプに属するものです。津山城の天守台石垣は、外周部分（外から見える部分）は間詰石が多く詰められているのに対し、穴蔵石垣については、石と石の間に空隙が多く見られました。

石は、元々あった間詰石も出来るだけ活かしながら、足りない部分は、津山城の石垣と同じ凝灰岩の石材を隙間の大きさに合わせて手作業で細かく砕き、石垣の間に詰めていきます。このとき、間詰石が動かないようにしっかりとかみ合わせるように詰めることが重要です。この作業は、石垣専門の石工さんの経験がものを言うところです。

石と石の間に隙間があると、その空隙から内部の栗石が流出し、石垣が不安定な状態になってしまいます。今回の整備工事により、間詰石がしっかりと入れられ、石垣の不安定な状態を防ぐことができ、来城者の方が安全に天守台を見学することができるようになりました。

3ページの写真7～14は、天守台穴蔵の各石垣面について、間詰石を詰める前と詰めた後を撮影したものです。石を詰める前は、各石垣面とも隙間が多く、内部の



写真6 ③のタイプの石垣（裏下門枡形東面石垣）



写真7 南面（写真3の1）（補修前）



写真8 補修後



写真9 西面（写真3の2）（補修前）



写真10 補修後



写真11 北面（写真3の3）（補修前）



写真12 補修後



写真13 北面（入口部分）（写真3の4）（補修前）



写真14 補修後